

第2回 東久留米市第4次長期総合計画審議会会議要録

1. 開催日時・場所

日時：平成21年2月23日(月)19時00分～21時00分

場所：東久留米市役所 庁議室

2. 出席者(全21名)

委員：並木委員、沢田委員、篠原委員、間宮委員、富田委員、菊池委員、渋井委員、
松本委員、梅本委員、土屋委員、小山委員、生田委員、大塚委員、野島委員

欠席：齋藤委員

事務局：企画経営室長、企画調整課長、企画調整課長補佐、
企画調整課主任、(株)富士通総研3名

3. 議事次第

(1) 開会

(2) 議題

第4次長期総合計画基礎調査報告書について

市民アンケート調査の結果について

団体ヒアリング調査の結果について

人口・財政フレームについて

(3) その他

今後のスケジュール

次回の審議会の開催について

4. 配布資料

(1) 資料1 第4次長期総合計画 基礎調査報告書

(2) 資料2 主要指標の推計(抜粋版)

(3) 参考資料 市民アンケート調査シート

(4) 第1回東久留米市長期総合計画 基本構想審議会会議要録

5 . 主な質疑

(1) 開会

【会長】

- ・齋藤委員より欠席の連絡をいただいているが、会議の定足数を満たしているため、審議に入る。前回、野島委員がご欠席のため、委嘱書を交付する。

【委員】

- ・東久留米市商工会議所委員を務めている。よろしくお願ひしたい。

(2) 議題

第 4 次長期総合計画基礎調査報告書について

【事務局】

- ・第4次長期総合計画基礎調査報告書は、市の現状把握及び分析等を目的に取りまとめているものである。前回は人口、財政等の部分についてご報告させていただいた。今回は全体版を提示させていただく。なお、年度内には最終版として取りまとめていく。

【事務局】

資料 1 に即しての説明。

【会長】

- ・すでに皆様のお手元に配布されているので、ご意見・ご質問等があれば、挙手にてお願ひしたい。

【委員】

- ・人口について、特に重要だと感じている。今回の第 4 次長期総合計画時点は、前回の計画検討時とは大きく社会環境も異なっている。第 3 次の場合は、人口推計結果は 13 万程度と想定していたものの微増にとどまった。平成 12 年と平成 17 年の人口を見ると、清瀬市は非常に増加したが、東久留米市は 2,000 人程度の増、それぞれのまちの特徴などもあるが、東京や全国を見ても人口は今後減少していく。人口が減少していくということは、まちのあり方として、活力や助け合い、産業、税収の後退などの観点を考えても、芳しくないのではないかと。東久留米市という単位で考えても、人口減少というのは芳しくない。このあたりの見通しをどのように考えていくのか。農地も守らなければならないが、まちの発展という意味合いでは、少なくとも人口が微増していくという想定で、考えなければならないのではないかと。現状よりも人口を増加させる方向性をもった施策をベースとして考えていくべきではないかと。

【事務局】

- ・平成 12～22 年度の第 3 次総合計画期間においては、ほぼ目標値に近い形で推移した。本日の会議の中で、人口フレームについてもご説明するので、そこで再度ご説明する。

【委員】

- ・-107 頁について、人口は平成 17 年から増えていないが、外国人登録者数は増加している。これは他市と比較して多いのか、また、東久留米市として外国人登録者数に対してどのような施策を打ち出しているのか。

【事務局】

- ・本日は他市の状況までの資料をご用意していないが、外国人登録者数が増えているという認識はしている。

【事務局】

- ・外国人が市民として生活に関する施策、ごみの出し方に関する周知資料等を作成はしている。当市には 1,700~1,800 人程度の外国人の方が在住している。詳細な資料を次回、提示させていただく。

【委員】

- ・基礎調査報告書のデータを見ると、出典が様々であるので仕方が無いと思うが、東久留米市のみのデータであっても、平成 18 年度のデータなど古いものがあるが、できる限り新しいデータをご用意いただきたい。

【事務局】

- ・確かに直近のものがあると良いが、市の独自資料は直近のデータを提示しているが、調査の基準日の問題や他市との比較という観点となると他市のデータが出揃うまでに、時間がかかる。現在ご用意しているデータは、現時点における最新のものををご用意させていただいている。

【委員】

- ・先にこの 10 年先を見通すと、数値が低い事項を上げれば良いのではという話になっていくのではないかと思うが、それも踏まえた上で、東久留米の魅力をどのように出していくのかという観点について、どのように考えていくか。

【事務局】

- ・この審議会は基本構想を検討いただくというのが主旨であるが、その中でまちの将来像を考えていただくことが主軸となる。今回は、将来像についてご議論いただくための出発点として、まちの現状に関するデータを提供させていただいた。

【委員】

- ・高齢者福祉という点で、要介護 3 の認定者数が平成 14 年 248 人から平成 18 年 418 人と倍近く増加している。特に 75 歳以上の高齢者は 5 年間で 36% 以上増加している。また、多くの高齢者が介護を必要とするようになることも想定される。高齢者自身による健康づくりなどの考察を記載しているが、市の方ではどのような判断でこうした分析をしているのか。
- ・健康づくりということを第一に考えている、体力測定に基づいて、自分の体力が自分の年齢相応なのか、不足している場合は何が不足しているのかということが分かる、それを踏まえて健康づくりをどのようにしていくかというメニューをそろえている。老人クラブとしても、健康づくりが第一であり、一般の方も、高齢者の方も一緒に、今後は健康予防に力を入れていくということが大切だと考えている。

【事務局】

- ・現実として、介護認定率が 11.8% と低い数値になっているという状況であるが、市としては、高齢者自身による健康づくりが進められているのではないかという認識をもっている。

【委員】

- ・高齢化率が今後も上昇していくことが想定されるなかで、認定率が低い状態を維持できるまちとしての将来像を描いていけると良いのではないか。そうした施策を打つ、個々人の努力もありながら、将来像として、高齢化率が上がっていても、いきいきと高齢者が暮らせるまちを将来像の中に入れていけると良いのでは

ないか。

【事務局】

- ・市の高齢化率の伸び具合は、10年前とは大きく変化しており、人口構造の変化により、近年は非常に高齢化率が上昇している。高齢者自らの取組みなども功を奏していると考えられる。75歳以上の方の割合が増えてくるが、今高齢者になっている方は、ある大変な時期を乗り越えてきた方々だといわれているが、今後高齢者になっていく方々はそうした時期を経ないで高齢者になっていくので、そもそも基礎体力が違うのではないかとされている。今後の推移を注視していく必要がある。

【委員】

- ・ - 44～47 頁について、東久留米市の道路行政は道路面積が割合に高いことがわかるが、 - 53 頁で公園緑地面積は決して喜ぶべき数値ではなく、多摩地域の平均を大きく下回っている。道路の開発がこれからどんどん行われてくると、地方の道路が市に与えるプラス面の影響というのは非常に少ないと思う。大きい道路を敷設したので、人が通過してしまうということも想定される。基本構想として、水や緑のまちと謳っているわけであるので、そこに力をいれていかなければ魅力あるまちにはならないのではないかと。

【事務局】

- ・都立公園などは、そのエリアを含むものをカウントされるが、それでも低い状況である。それを補うために生産緑地としてあるわけである。それを今後も将来にわたって継承していけるかどうか。その中で、六仙公園というのは非常に大きな意味を持つと考えている。
- ・道路については、西口から市内へ拡散する東 3 - 4 - 19 号線は、市の背骨となる道路であり、東 3 - 4 - 20 号線は、東口から新座市への連絡として位置付けを持っている。東西を結ぶ街道も、それぞれの地域と地域、地域と駅を結ぶという意味で重要な位置付けとして考えている。いただいたご意見も含めて、この審議会の中でどうあるべきかご議論いただきたい。

【委員】

- ・南北の交通が無いということが、我々市民の生活に支障を来しているのではないかとと思う。
- ・水と緑とふれあいのまちと謳っているが、生産緑地も緑としてカウントすることに疑問を感じる。やはり、公園や緑地をもっとつくっていくべきではないか。

【事務局】

- ・道路の問題に関しては、南沢地域については、南沢湧水を保全することを目的として道路を敷設することはできない。やはり取捨選択が必要なのだろうと思う。
- ・緑の関係については、 - 54 頁で 1.68 という数値となっているが、ここに入っていないものとして、歴史保全地域、保存樹林など他にもある。生産緑地だけをもって代替しているというのではなく、南沢の湧水地周辺や六仙公園などでは確保していくことはできるかと思う。ただし、市独自の施策としてどうしていくかという点については、知恵をだしていく必要がある。みどりの基金についても一定額あるが、危機に瀕した保全すべき緑地について、活用していく状況である。

【委員】

- ・前回の基本構想、基本計画策定時である平成 13 年は、基本目標と基本構想では総花的な話をしてきた。今回の計画検討にあたり、これからの 10 年間を考えたときに、財政面から見ると、これから 10 年経済成長があるかというところでは

ないと予想される中で、人口の関係を見ても担税力のある方々を呼び込むことができるような、23区に近い場所にありながら自然に人が集まってくるブランド力がある他市と比べて、東久留米市が対抗できるブランド力があるかというところではなく、非常に難しいことが予想される。

- ・第4次基本構想は、第3次の内容を引き継いでいくのか、将来像については水と緑のまちというのは動かさないとと思うが、基本目標についてはどのようにしていくかということを考えていかなければならないだろう。

【事務局】

- ・第3次の基本目標が第4次に引き継がれていかなければならないということではない。

【会長】

- ・ - 8頁について、現状を踏まえて今後の取り組むべきと考えられる課題として6つ挙げられている。これは現状を踏まえて、こうしたことが主要課題になると掲示されているわけであるが、こうした6つの観点からそれぞれ考えていく必要もあるかと思う。委員のおっしゃったように、その中でどこに力点を置いていくのかということは今後考えていくことが必要だろう。
- ・そうした一方で、市民アンケート調査結果では市民の皆さんはまた異なる観点をお持ちのようである。

【委員】

- ・ - 108頁の男女共同参画について、平成15~20年で、各種の審議会等で女性委員の占める割合は6ポイント程度後退している。これはやはり芳しくないのではないか。後退した要因としてどのようなことを考えているのか、ご意見を伺いたい。男女共同参画ということは、我が国の施策としても、重点的に検討していかねばならないのではないのか。女性も社会参加、共同でやらなければ、国が成り立たないといったことを文献などで言われている。男女共同参画という施策が、付け焼刃的になっている。市としても法令で定めのあるものを除けば、全ての審議会で1/3以上は片側の性とするというようなまちづくりをしていかなければならないのではないのか。

【事務局】

- ・平成20年12月に東久留米市男女共同参画推進審議会答申では、今、おっしゃられた内容が指摘されている。市として周知不足とされている。東京都内の平均が23%といわれており、東久留米市自身が決して低いというものではない。

【会長】

- ・行財政の - 115頁のグラフの中で、経常収支比率が多摩26市と比較して、東久留米市が平成17年度から急激に右上がりになっているが、何か原因があるのか。

【事務局】

- ・経常収支比率は、経常一般財源を分母にして、経常的な支出を分子にするわけである。東久留米市の場合、投資的事業をかなり絞り込んだ影響もあるが、歳出総額そのものが減少するとともに、経常的な経費が占める割合が非常に増えてきているという状況が非常に大きな影響を及ぼしている。

市民アンケート調査の結果について

【事務局】

資料1 - 1頁 ~ に即しての説明。

【委員】

- ・このアンケートの項目というのは、東久留米のこれからの方向性を示した上でのアンケート調査となっているのか。

【事務局】

- ・この表の一番左側の施策の下にそれぞれの事務事業がぶら下がっている。それらの施策についてどうかと聞いている。あくまでも現状に対する認識について質問している。

【委員】

- ・回答者の年齢について、3,000人を対象として行った中で10~20歳代の回答が、全体の8.6%ということで、60歳代以降が多くを占めているということである。さきほど篠原委員からあったように、男女比の問題もあり、またいろいろな立場の方々が意見をいうことができるということが必要であり、各世代の方々が意見を言えるような、10~20歳代の方々の意見収集について、具体的に検討していくことが必要ではないかと思うが、いかがか。

【事務局】

- ・ご指摘の通りであると認識している。その点については、そうしたフィルターを通して資料を読まなければならないだろう。

【委員】

- ・少数意見ということで、障害者施策についてどの程度の方が意識をお持ちかということはこの資料からは分からない。この中で、数の上では少ないがどう考えていくかということ、この審議会の中でより検討をしていかなければならないと感じている。クロス集計なども難しいと思うが、介護されている方の回答などもあると良いのではないか。

【事務局】

- ・個票の属性、アンケート分析上の母数の限界もあるので、ご指摘のクロス集計というのはおそらく難しいかと思う。

【委員】

- ・自由記述の意見がまとめられていないようであるが、それについてどのような意見が挙げられているのか。

【事務局】

- ・今回は手元にまとめられていないが、次回までにご提示させていただく。

団体ヒアリング調査の結果について

【事務局】

資料1 - 1頁~ に即しての説明。

【委員】

- ・各種団体企業等の意識を把握するというのは非常に重要であると思うが、民間事業所が4社ということであるが、なぜここを選択されたのか。いろいろなところから聞いた方が良いのではないかと思うが。

【事務局】

- ・関連団体については、市内の主なものということで上げさせていただいた。民間団体についてはいくつかピックアップしてヒアリングを依頼したが、相手先の事情ということで、ここであげさせていただいた。

【委員】

- ・駅前活性化が必要であると書かれているが、ここで活性化というのはどういう意味であるのか。

【事務局】

- ・ヒアリング実施団体から、東久留米市の昼間人口が少ない中で、駅前を活性化させる仕掛けづくりをして、人を呼び込んでいくことが必要だというご意見があった。

【委員】

- ・私どもが感じているところでも、人の出入りがあるお店が少ないということを感じているのか。

【事務局】

- ・西口地区が開発され、基盤整備が整った段階でバブルがはじけたため、立地する事業所がなかなかなく、土地所有者の方々がマンション建設に走ったという時代背景にある。まだ空閑地もあるので、それぞれの活動が活性化することによって、エリアも活性化するのではないかと期待を持っている。

【委員】

- ・駅近隣にあれだけ大きなマンションを建設すると、マンションの周辺の学校は人が溢れ、周辺は過疎化が進むといった偏った構造になってしまうのではないかと懸念している。

【委員】

- ・新たに建設した道路の周りが農地でといった都市計画では、道路から10mまでは用途地域を変更するなどにより商業誘引するということが必要であり、用途地域の変更などができなければ、事業所の呼び込みなどはできないのではないかと懸念している。

【事務局】

- ・都市計画道路敷設時には、沿道地域の用途転換などを図っている。用途容積だけの話をすると、指定変換すると現在の3倍となるということである。決して市が指定している用途容積が低いということではなく、そもそも立地・開発する事業所が少ないということが課題である。

【委員】

- ・駅周辺の活性化について、他近隣市と比較すると、基礎体力という意味では対抗できないだろう。そうではなく、東久留米らしさ、魅力を打ち出したまちづくりを展開していかなければ、他市との競争には勝てないのではないかと懸念している。そうした中で、東久留米の魅力とは何か、全国でもそうして成功している例もある。
- ・例えば、境港市ではゲゲゲの鬼太郎でまちおこしをしている。シャッターどおりの商店が活用されるようになり、100万人の観光客を誘引しているということである。また、群馬県みどり市では、富弘美術館を建設し、30万人を集客して、観光ルートの一つの目玉になり、それに伴い産業が誘発されるなど、活性化につながっているということである。
- ・鉄腕アトムなど、そうした地域の資源を生かして、近隣の方々に遊びに来てもらう、東久留米の魅力を伸ばしていくということが必要なのではないかと懸念している。駅の西・東口も、他と同様ではなく東久留米独自の魅力向上ということが必要なのではないかと懸念している。

【事務局】

- ・この審議会の中で、そうしたアイデアをいただければと思っている。

【委員】

- ・今年の七福神めぐりが4,000~5,000人、非常に人を呼びこめたということである。

り、年々増えてきている。他市から来て東久留米にはこうしたことがあるよということ、落合川が平成の名水百選に選ばれているということもあるので、そうしたことと併せて活用していけると良いのではないか。

【委員】

- ・東久留米に目を向けていただける方が増えると、その中から定住してくれる人が増えると良いのではないかと思う。アンケート調査結果の中で、市としての魅力として、緑の話が非常に要望されているということである。23区と比べるとそれなりの単価で家も買えるといった魅力もあり、住民がメインでまちづくりがされていると感じている。こうした話は他市でも活発になされてくる場所であると思う。住みやすい環境、商店街や道路の話も含めた、複合的に考えて、どのようにつないでいくか、住宅地としての東久留米市の魅力を検討していくことが必要なのではないか。観光の話もあるが、観光だけでは魅力向上にはならないので、長い目で見て、住み続けてもらえるようなまちづくりということを検討していかなければならないのではないか。

【委員】

- ・東久留米市は落合川など、他市にはない魅力があると思う。河川敷は都の管理であるので、花を植えたりなどできない状況であるが、市と東京都とが連携して、人に来てもらうような魅力向上の仕掛けづくりの活動がスムーズに展開できるような、土壌づくりをして欲しい。

【委員】

- ・武蔵野市から移り住んで来て、心動かされたきっかけは、実家の近くに六仙公園ができたことである。六仙公園ができるということは、東久留米市の中でも非常に重要な変化の時期ではないか。
- ・犬を飼っており、ドッグランに行くが、小金井公園などにいかなければならない状況である。ドッグランは他市からも人が非常に来ている状況である。そうしたように、市民が希望するような公園にすることができないのか。市から東京都に対して、連携を持って、市民の意見を出していくということができないか。

【事務局】

- ・正確な資料が手元にないが、六仙公園の基本コンセプトとして、近くに南沢湧水があり、落合川の水源涵養地となっており、その中の15ヘクタールを公園としていくことである。小金井公園などの総合公園ではなく、自然を重視した公園としているということである。

【委員】

- ・現在、金網で囲われて使われていないものがある。例えば、そうした場所をドッグランに使うことができないのか。

【事務局】

- ・都立六仙公園全体の10%の買収が済んで、仮の使われ方ができる状態になっているが、もともとの基本コンセプトにあった使われ方がされてくるのだろうと思う。

【委員】

- ・防災公園ではないのか。

【事務局】

- ・最終的にできあがった時点で、そうした使い方もできる。

【委員】

- ・近隣の方々が協力して、河川や公園の芝の管理をしている。地域住民は皆、都の

公園課と接触を持って付き合いをしている。個人として、声を出していきたいと思う。まだ学校がある間はもうしばらく待っていただきたい。

人口・財政フレームについて

【事務局】

資料2 人口・財政フレームの考え方（抜粋版）に即しての説明。

【会長】

- ・技術的な部分であり、どこの自治体もそうした形でやらざるを得ないということかと思う。よろしいか。

その他

【事務局】

- ・3月議会がスタートするが、議会を除いた月での開催とさせていただいているので、4月22日水曜日を第一候補として開催予定とさせていただいている。

【会長】

- ・以上をもって本日の議題全て終了させていただく。

【事務局】

- ・お手元に第2回の会議録をご用意している。こうした形でお示しさせていただく形となる。

【事務局】

- ・内容を御確認いただき、相違があればご連絡をいただいた上で、公開していきたいと思う。なお、前回の会議でご提案のあった市民意見募集については、3月15日号の広報に掲載させていただく。

【会長】

- ・会議要録をご一読いただき、訂正等があれば、1週間以内に御連絡いただきたい。

以上